

上越南地区商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 上越南地区（牧区、三和区、中郷区、板倉区、清里区）
イ 対象企業 同地区内商工会員
ウ 調査企業数 60 事業所（うち小規模事業者数 56 事業所）
エ 回答企業数 60 事業所
（回答率 100.0%）

(2) 調査対象期間

令和5年 1月～令和5年 3月
（調査時点：令和5年4月1日）

(3) 調査方法

会員へ調査票を配布し回答を回収した。

※本報告書中の「DI」とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（上昇、好転）企業の割合から減少（低下、悪化）企業の割合を差し引いた値を示すものである。

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
1 建設業	17	28.3%	17	28.3%
2 製造業	8	13.3%	8	13.3%
3 卸売業	5	8.3%	5	8.3%
4 小売業	14	23.3%	14	23.3%
5 飲食・宿泊業	8	13.3%	8	13.3%
6 サービス業その他	8	13.3%	8	13.3%
合計	60	100.0%	60	100.0%

	小規模企業	中小企業	大企業	合計
規模別回答企業数	56	4	0	60
構成比	93.3%	6.7%	0.0%	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

今回の調査では前年同期比及び前期比の指標において景況感は悪化となった。しかし、新型コロナの感染者数の落ち着きやマスク着用ルールの緩和に伴い消費者のマインドが明るくなり、人出は増加し個人消費を中心に幅広い業種でプラスに作用していくと見込まれることから、今後は改善へ向かうと期待する回答が多かった。但し、ウクライナ情勢は不透明感が強く、原材料価格の高騰や人手不足などの長期化は懸念材料となり得る。構造的な問題に加えて、コロナ関連融資の返済、金利動向なども悪材料と言える。今後は、原材料価格高騰など下振れ要因はあるものの、概ね前年並みで推移するとみられる。

【売上高】

売上DI値については、前年同期比（R4.1月～3月）で△15.0ポイント減少し、さらに前期比（R4.10月～12月）では△38.43ポイントと大幅に減少となった。また、今後の見通し（R5.4月～6月）においては+58.3ポイントと大幅に改善するものの、依然として低水準で推移する見通しとなっている。

前年同期比

増加	不変	減少
8	25	27

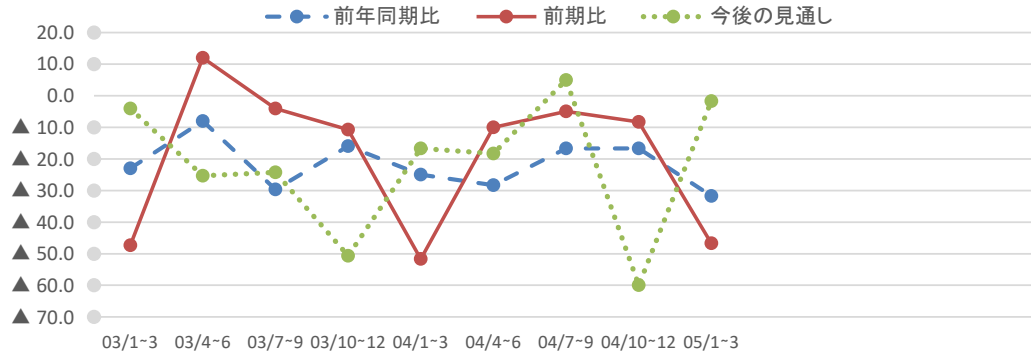
前期比

増加	不変	減少
5	22	33

今後の見通し

増加	不変	減少
15	29	16

売上DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3				
前年同期比	▲ 23.0	▲ 8.0	▲ 29.7	▲ 16.0	▲ 25.0	▲ 28.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 31.7				
前期比	▲ 47.3	12.0	▲ 4.1	▲ 10.7	▲ 51.7	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 8.3	▲ 46.7				
今後の見通し	▲ 4.1	▲ 25.3	▲ 24.3	▲ 50.7	▲ 16.7	▲ 18.3	5.0	▲ 60.0	▲ 1.7				

【採算】

採算値については、前年同期比（R4.1月～3月）で△15.0ポイントであり、前期比（R4.10月～12月）では△31.6ポイントと共に減少となった。しかし、今後の見通し（R5.4月～6月）では+36.7ポイントと増加している。売上DI値と同じく全業種で、今後の見通しは不変及び悪化との回答が多く見られた。

前年同期比

好転	不変	悪化
5	32	23

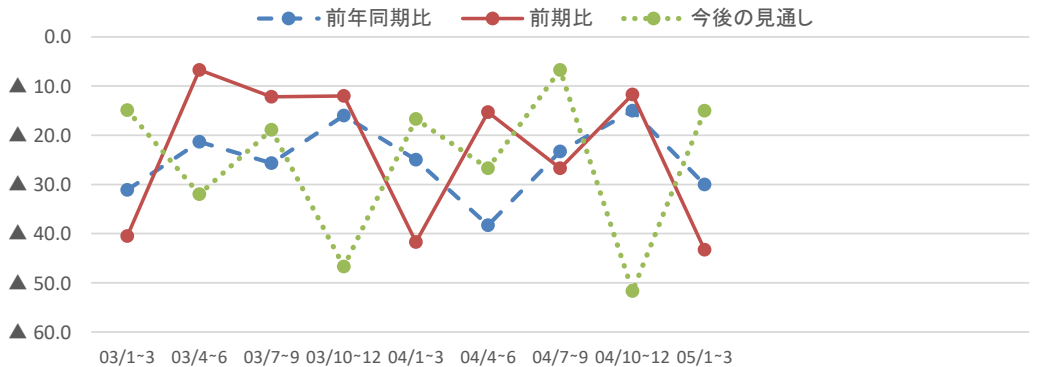
前期比

好転	不変	悪化
3	28	29

今後の見通し

好転	不変	悪化
9	33	18

採算DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3				
前年同期比	▲ 31.1	▲ 21.3	▲ 25.7	▲ 16.0	▲ 25.0	▲ 38.3	▲ 23.3	▲ 15.0	▲ 30.0				
前期比	▲ 40.5	▲ 6.7	▲ 12.2	▲ 12.0	▲ 41.7	▲ 15.3	▲ 26.7	▲ 11.7	▲ 43.3				
今後の見通し	▲ 14.9	▲ 32.0	▲ 18.9	▲ 46.7	▲ 16.7	▲ 26.7	▲ 6.7	▲ 51.7	▲ 15.0				

【仕入単価】

仕入単価については、前年同期比（R4.1月～3月）で△10.0ポイントの減少であり、前期比（R4.10月～12月）も△6.7ポイントの減少であった。しかし、今後の見通し（R5.4月～6月）では+10.0ポイントと増加している。今後も資源価格の高騰と円安による原材料価格の上昇で仕入単価の上昇が懸念される。

前年同期比

上昇	不変	低下
46	13	1

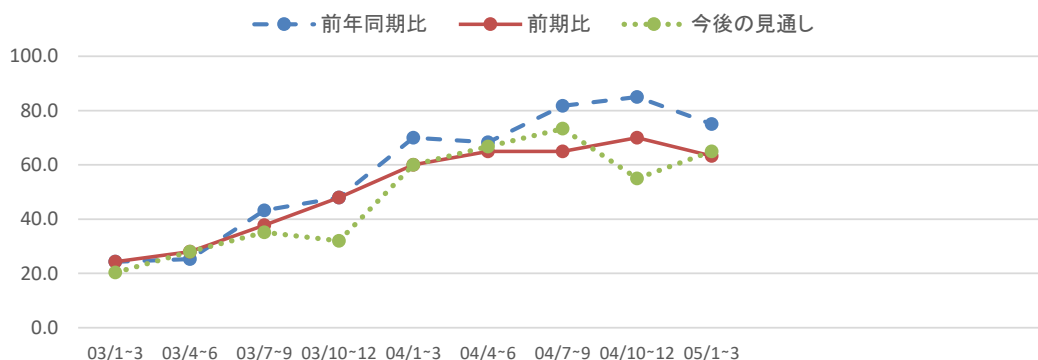
前期比

上昇	不変	低下
38	22	0

今後の見通し

上昇	不変	低下
39	21	0

仕入単価DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3			
前年同期比	24.3	25.3	43.2	48.0	70.0	68.3	81.7	85.0	75.0			
前期比	24.3	28.0	37.8	48.0	60.0	65.0	65.0	70.0	63.3			
今後の見通し	20.3	28.0	35.1	32.0	60.0	66.7	73.3	55.0	65.0			

【販売（客）単価】

販売単価については、前年同期比（R4.1月～3月）で+4.1ポイント増加したが、前期比（R4.10月～12月）は△6.6ポイントの減少となった。しかし、今後の見通し（R5.4月～6月）では+28.3ポイントと大幅に増加を示している。なお、今回調査で卸売業・小売業及び飲食業においては全ての調査期間で不変もしくは低下と回答した事業所が目立った。

前年同期比

上昇	不変	低下
13	40	7

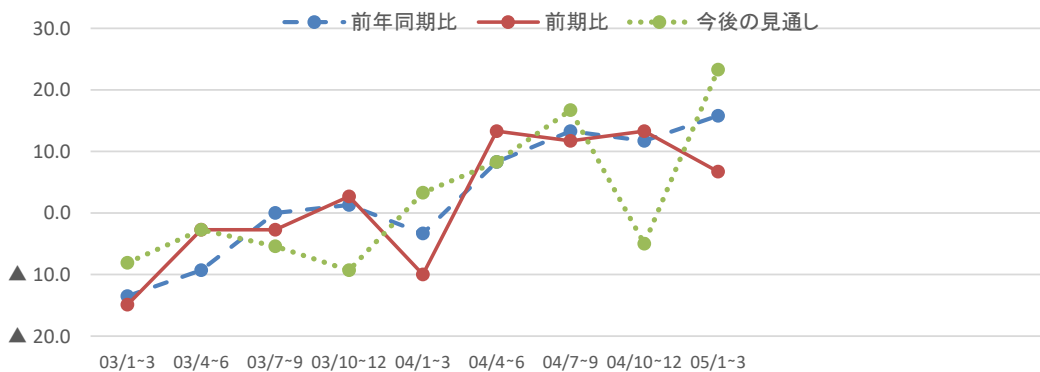
前期比

上昇	不変	低下
15	34	11

今後の見通し

上昇	不変	低下
18	38	4

販売（客）単価DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3			
前年同期比	▲ 13.5	▲ 9.3	0.0	1.3	▲ 3.3	8.3	13.3	11.7	15.8			
前期比	▲ 14.9	▲ 2.7	▲ 2.7	2.7	▲ 10.0	13.3	11.7	13.3	6.7			
今後の見通し	▲ 8.1	▲ 2.7	▲ 5.4	▲ 9.3	3.3	8.3	16.7	▲ 5.0	23.3			

【資金繰り】

資金繰りについては、前年同期比（R4.1月～3月）で△11.7ポイントであり、前期比（R4.10月～12月）では△10.0ポイントと共に減少となった。しかし、今後の見通し（R5.4月～6月）においては+16.7ポイント増加となった。前年同期比及び前期比では殆どの事業所が不変・悪化との回答であった。

前年同期比

好転	不変	悪化
1	48	11

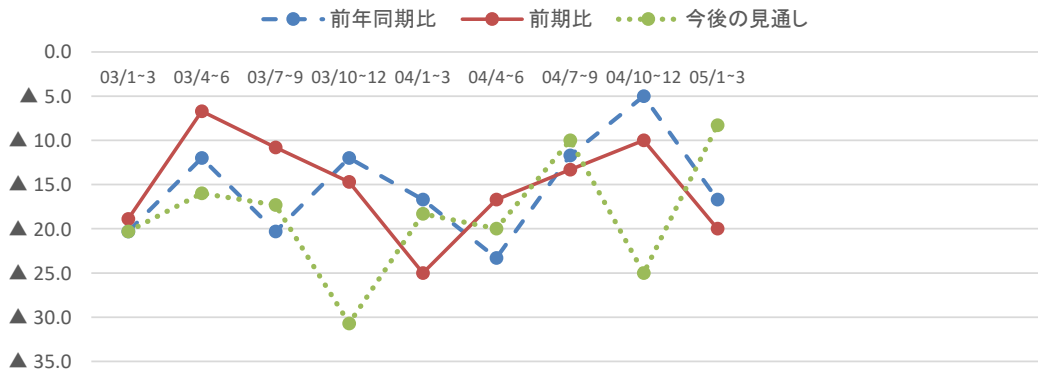
前期比

好転	不変	悪化
1	46	13

今後の見通し

好転	不変	悪化
3	49	8

資金繰りDIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3			
前年同期比	▲ 20.3	▲ 12.0	▲ 20.3	▲ 12.0	▲ 16.7	▲ 23.3	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 16.7			
前期比	▲ 18.9	▲ 6.7	▲ 10.8	▲ 14.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 13.3	▲ 10.0	▲ 20.0			
今後の見通し	▲ 20.3	▲ 16.0	▲ 17.3	▲ 30.7	▲ 18.3	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 8.3			

【雇用動向】

雇用動向については、前年同期比（R4.1月～3月）で+5.0ポイント増加し、前期比（R4.10月～12月）では+3.3ポイントの増加となった。さらに、今後の見通し（R5.4月～6月）でも+6.7ポイントの増加と全てにおいて前回調査より好転となった。また、今回調査で95%以上の事業所が不変と回答している。

前年同期比

増加	不変	減少
2	57	1

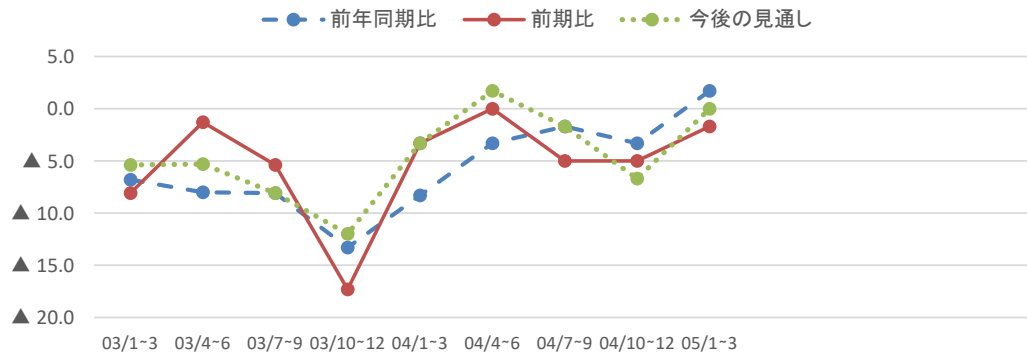
前期比

増加	不変	減少
1	57	2

今後の見通し

増加	不変	減少
1	58	1

雇用動向DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3			
前年同期比	▲ 6.8	▲ 8.0	▲ 8.1	▲ 13.3	▲ 8.3	▲ 3.3	▲ 1.7	▲ 3.3	1.7			
前期比	▲ 8.1	▲ 1.3	▲ 5.4	▲ 17.3	▲ 3.3	0.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 1.7			
今後の見通し	▲ 5.4	▲ 5.3	▲ 8.1	▲ 12.0	▲ 3.3	1.7	▲ 1.7	▲ 6.7	0.0			

【景況判断】

景況判断については、前年同期比（R4.1月～3月）で△10.0ポイントの減少、前期比（R4.10月～12月）では△8.4ポイントと共に低下した。しかし、今後の見通し（R5.4月～6月）では+30.0ポイントと増加し改善傾向にある結果を示した。また、今後好転すると回答した事業所数は微増となっている。

前年同期比

好転	不変	悪化
4	34	22

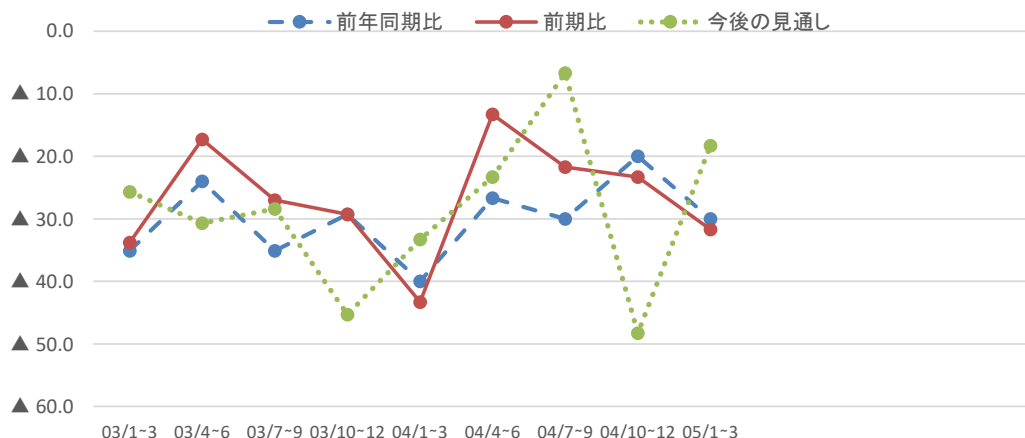
前期比

好転	不変	悪化
3	35	22

今後の見通し

好転	不変	悪化
5	39	16

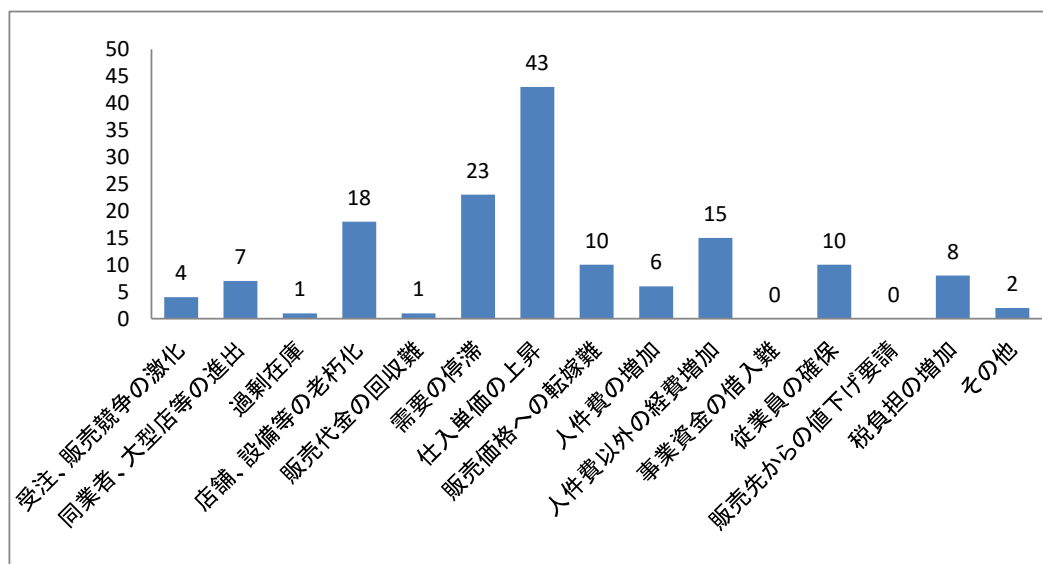
景況判断DIの推移



	03/1-3	03/4-6	03/7-9	03/10-12	04/1-3	04/4-6	04/7-9	04/10-12	05/1-3				
前年同期比	▲ 35.1	▲ 24.0	▲ 35.1	▲ 29.3	▲ 40.0	▲ 26.7	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0				
前期比	▲ 33.8	▲ 17.3	▲ 27.0	▲ 29.3	▲ 43.3	▲ 13.3	▲ 21.7	▲ 23.3	▲ 31.7				
今後の見通し	▲ 25.7	▲ 30.7	▲ 28.4	▲ 45.3	▲ 33.3	▲ 23.3	▲ 6.7	▲ 48.3	▲ 18.3				

【経営上の問題点】

経営上の問題点について、今回の調査対象期間である1月～3月調査は前回調査と同じく「仕入単価の上昇」が最も多く、次いで「需要の停滞」「店舗、設備等の老朽化」が問題点として挙げられている。特に「仕入単価の上昇」においては、全体の7割以上の事業所が回答している。また、小売業及びサービス業においては4割以上の事業所が「店舗、設備等の老朽化」を問題点として挙げている。現在の経営環境下において経営者の皆さんが感じておられることとしては、需要の停滞や物価高騰、人手不足問題など不安視する意見等が挙げられた。



3. 産業別景況概要

(1) 建設業

建設業においては、売上・採算性ともに前年同期比及び前期比まで悪化との回答が多く見受けられた。しかし、今後の見通しでは半数の事業所が好転する見込みとの回答であった。但し、今後の資金繰りで支障が出るという不安もあることから、幾つかの事業所では低下傾向となるとの回答もあった。経営上の問題点に関しては、前回調査と同じく材料価格等の高騰による「仕入単価の上昇」との回答が最も多く、次に「従業員の確保」となっている。これについては従業員の高齢化が進む中で、建設業者の存続を危ぶむ声が聞こえており、担い手の確保が大きな課題といえる。

(2) 製造業

製造業の売上及び採算性については、調査した約9割の事業所が前年同期比及び前期比で悪化及び不変との回答であった。但し、今後の見通しにおいては4割弱の事業所が好転すると回答が目立った。また、仕入単価においては前年同期比・前期比・今後の見通しで上昇すると殆どの事業所が回答した。経営上の問題点としては、「税負担の増加」と回答した事業所が多く挙げられていた。

(3) 卸・小売業

卸売業においては売上・採算性ともに全事業所が前期比及び今後の見通しで不変・減少との回答であった。また、小売業については、今後の見通しで半数の事業所が売上が低下するのではないかと先行きを不安視する声が多く聞かれた。経営上の問題点としては卸売業・小売業ともに「仕入単価の上昇」「店舗、設備等の老朽化」を挙げていた事業所が多く、さらに、小売業においては7割の事業所が「需要の停滞」を問題点としている。

(4) サービス業（飲食・宿泊を含む）その他

飲食業においては、売上及び採算性は殆どの事業所が前期比から今後の見通しで不変もしくは悪化との回答が目立った。また、材料費や光熱費の高騰など人件費以外の経費増加が著しいうえに、販売価格への転嫁難もあり利益の確保が難しい。サービス業においては、前年同期比及び前期比で不変もしくは悪化との回答が多く見られたが、今後の見通しでは約4割の事業所が好転するとの回答。また、飲食・宿泊業・サービス業で最も多い経営上の問題点に挙げられていたのは「仕入価格の上昇」であり、サービス業においては「店舗、設備等の老朽化」との回答も多く見られた。

※ 今後の事業・経営において強化したい・期待したい点（設備投資・販路開拓等）や現在の経営環境下において貴社が感じておられる自由意見

【 建設業 】

- ・円滑な事業承継を考えている。
- ・春になって忙しくなり人員が欲しいが冬のことを考えるとなかなか難しいです。
- ・需要の拡大と同業者・取引先との長引く体力の限界時。
- ・物価の高騰により、お客の購買意欲が買い控えとなっている。

【 製造業 】

- ・今後は好転すると思うが変化に注視したい。

【 小売業 】

- ・販路の開拓
- ・商店街の活性化。5年後の今の店の存続が無い。
- ・販売価格の上昇に伴い需要の停滞が顕著。

【 サービス業（飲食・宿泊を含む）その他 】

- ・仕入単価の上昇が経営を圧迫していると感じます。商品を値上げしてお客様が離れてしまうのが怖くて値上げをできず困っています。
- ・固定客もコロナ禍から来店サイクルは長期化している。感染者数が落ち着きつつあり回復を期待したい。チラシでお店の技術をメニュー提供し、来店を期待したい。
- ・少子高齢化。